

国体・障害者スポーツ大会推進協議会

協議の結果概要

令和元年 1 2 月

茨 城 県 議 会



## 目 次

1	はじめに	1
2	推進協議会の概要	2
3	活動経過	3
4	第1回推進協議会の会議録	4
5	第2回推進協議会の会議録	12
6	第3回推進協議会の会議録	18

### < 参考資料 >

1	茨城県議会議員「いきいき茨城ゆめ国体」・ 「いきいき茨城ゆめ大会」の成功に向けた行動指針	29
2	天皇陛下御即位記念「いきいき茨城ゆめ国体2019」・ 「いきいき茨城ゆめ大会2019」の成功に向けた決意表明	30
3	国体・障害者スポーツ大会推進協議会 終了にあたっての会長挨拶	31
4	両大会の結果等について（第3回推進協議会執行部報告資料より）	32



## は じ め に

茨城県議会では、「いきいき茨城ゆめ国体」、「いきいき茨城ゆめ大会」の開催にあたり、平成28年に設置された「国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会」において2年半にわたる調査・検討を行い、知事はじめ執行部に対し提言を行ったほか、両大会の成功などに向け様々な取り組みを推進してきた。

加えて、両大会の開催が迫る中、県民の代表であり、県民に最も近い立場である県議会議員が、様々な活動を通じて来県される方々への「おもてなし」に努めるなど、率先して大会を盛り上げていくことが重要であるとの認識に鑑み、平成31年3月25日(2019年)に「国体・障害者スポーツ大会推進協議会」を設置したところである。

本推進協議会は、地方自治法及び県議会会議規則に基づき、初めて全議員を構成員とする協議・調整の場として設置され、令和という新しい時代を迎え、「天皇陛下御即位記念」と付与された両大会の成功を期するべく、第1回(6月)、第2回(9月)において、県議会及び議員がどのような活動をしていくのか、共通認識を図るとともに、行動指針を策定するなどの協議を行ってきたところである。

「いきいき茨城ゆめ国体」においては、茨城県選手団の活躍により45年ぶりとなる天皇杯、皇后杯を獲得した一方、「いきいき茨城ゆめ大会」は台風第十九号の影響により中止となり、安全を最優先とするやむを得ない判断であったが、関係者や選手にとっては非常に残念な結果となった。

国体終了後の第3回(12月)においては、両大会の成果を一過性のものとせず、今後の本県のスポーツ振興や地域活性化に結び付けていくため、選手や運営に携わったボランティアの方々を招へいし、そのご意見・所感等を聴取したほか、意見交換を行ったところである。あらためて、御協力いただいた皆様に厚くお礼を申し上げる次第である。

本書は、3回にわたる本推進協議会の会議録をまとめたものであり、両大会の成果を将来にわたって本県スポーツの振興や、地域の活性化等に活かしていくための一助となるよう、祈念するものである。

令和元年12月

国体・障害者スポーツ大会推進協議会 会長 川津 隆

## 国体・障害者スポーツ大会推進協議会の概要

- 1 設置日 平成31年3月25日
  
- 2 設置根拠 茨城県議会規則第126条第4項（協議又は調整を行うための場）
  
- 3 設置趣旨  
茨城国体，全国障害者スポーツ大会の成功に向けて，県議会が率先して取組等を推進していく必要があることから，その取組等について協議等を行うための場として設置する。
  
- 4 構成員等 全議員（会長：議長）
  
- 5 協議項目
  - （1）両大会の成功に向けた県議会における取組  
活動方針の検討・決定  
両大会への参加促進
  - （2）両大会に関する情報の共有
  - （3）両大会関係者からの意見聴取

国体・障害者スポーツ大会推進協議会 活動経過

回数	開催時期	協議会の内容
第1回	6月13日(木) <2定会期中>	<p><b>第1回協議会</b></p> <p>1 両大会に関する情報の共有            (1) 競技・イベント等の概要及び会場，開催期            日等の説明            ・両大会の開閉会式，実施競技，リハーサル            大会の概要及び会場，開催期日            ・関連イベント，デモンストレーションスポーツ，            文化プログラムの概要及び会場，開催期日</p> <p>2 両大会の成功に向けた県議会における取組            (1) 両大会の成功に向けた行動指針案の検討・            決定            ・基本的な考え方            ・県議会及び議員の活動指針            (2) 両大会への参加促進</p>
第2回	9月10日(火) <3定会期中>	<p><b>第2回協議会</b></p> <p>1 両大会に関する情報の共有            ・開閉会式，競技日程等</p> <p>2 両大会への参加促進            ・成功に向けた決意表明</p>
第3回	12月10日(火) <4定会期中>	<p><b>第3回協議会</b></p> <p>1 両大会の結果等について</p> <p>2 関係者からの意見・所感等について            (国体本県代表)            ・鈴木 龍生 選手(剣道・少年男子)            ・安嶋 千晶 選手(ウエイトリフティング・女子)            (全国障害者スポーツ大会本県代表)            ・小関 雄太 選手(砲丸投げ，ソフトボール投)            (両大会運営ボランティア)            ・茅根 芳幸 氏(いばらき観光マイスターS級認定者)            ・渡部 愛林 さん，賀川 萌香 さん(水戸女子高等学校)</p> <p>3 意見交換</p>





< 会 議 録 >



# 国体・障害者スポーツ大会推進協議会 (第1回)

茨城県議会

令和元年6月13日(木曜日)午前10時30分開会

議事堂1階大会議室

本日の会議に付した案件

- (1)協議会概要及び活動計画
- (2)両大会に関する情報の共有
- (3)両大会の成功に向けた県議会における取組
- (4)その他

富田事務局長 それでは、定刻となりましたので、これより、第1回国体・障害者スポーツ大会推進協議会を開催いたします。

開会に当たりまして、川津議長より御挨拶を申し上げます。

川津議長 おはようございます。

協議会の開会に先立ちまして、一言、私のほうから御挨拶申し上げます。

議員各位におかれましては、定例会中のお忙しい中、御参集いただき、まずもってお礼申し上げます。

本日お集まりいただいた国体・障害者スポーツ大会推進協議会は、先の第1回定例会において設置されたものであり、地方自治法及び議会会議規則に基づく全議員を構成員とする協議・調整の場でございます。

御案内のとおり、いきいき茨城ゆめ国体が9月28日に、いきいき茨城ゆめ大会が10月12日に開催されます。本県で45年ぶりとなる国民体育大会並びに県内初となる全国障害者スポーツ大会の開催に当たりましては、本県のスポーツ振興といばらきの魅力を発信する絶好の機会として、官民一体となり、開催準備や来県者を迎え入れる体制整備などに取り組んでいるところであります。

県議会においても、平成28年に設置されました国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会において、海野委員長のもと、2年半にわたる調査・検討を行い、両大会の成功などに向けた施策の基本方向を取りまとめ、知事に対し提言を行ったところであります。

いよいよ両大会の開催が迫る中、県民の代表であり、県民に最も近い立場である県議会議員がさまざまな活動を通じて両大会に関する情報発信を行い、来県される方々への心のこもったおもてなしに努めるなど、率先して大会を盛り上げていくことが重要であります。

そこで、本協議会においては、県議会及び議員が両大会の成功に向けてどのような活動をしていくのか、共通認識を図るとともに、両大会の成果を今後の本県のスポーツ振興や地域活性化に結びつけていくための協議の場にしたいと考えております。

議員各位におかれましては、両大会の成功に向けて、積極的な御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願ひいたします。

富田事務局長 ありがとうございます。

本協議会は、茨城県議会会議規則第126条第4項により設置され、会長は議長となっておりますので、川津議長、進行のほうをこれからよろしくお願ひします。

---

川津会長 それでは、暫時、会長の場を務めさせていただきたいと思ひます。

それでは、これより、国体・障害者スポーツ大会推進協議会を開会いたします。

---

川津会長 初めに、本日の協議会記録署名議員を指名いたします。

金子議員と遠藤議員にお願ひいたします。

---

川津会長 次に、本協議会の事務局職員並びに執行部からの出席者につきましては、お手元に配付の出席者一覧を御覧いただくことで御紹介にかえさせていただきます。

それでは、これより議事に入ります。

初めに、本協議会の概要及び活動計画についてであります。

本協議会は、先の第1回定例会中の平成31年3月25日に設置されたものであります。

その概要について改めてお示ししますとともに、協議会の活動計画につきまして、本日、案としてお手元に配付してあります。

まず、協議会の概要及び活動計画(案)について、事務局より説明させます。

大川政務調査課長。

大川政務調査課長 それでは、まず、協議会の概要について御説明させていただきます。

お手元の資料1の1ページ目、資料1-1をお開き願ひます。

本協議会は、地方自治法及び茨城県議会会議規則第126条第4項に基づき、本会議の議決を経て、平成31年3月25日に設置されたものでございます。

設置の趣旨は、両大会の成功に向けて、県議会が率先して取り組み等を推進していくための協議等を行うためとしております。

構成員は全議員とし、会長は議長がなると定めております。

協議項目については、(1)両大会の成功に向けた県議会における取組、(2)両大会に関する情報の共有、(3)両大会関係者からの意見聴取について協議していただくこととしております。

なお、協議会の運営等については、会議規則第126条第6項の規定に基づき、議長において、4ページ目の参考資料のとおり定めたことを御報告いたします。

次に、活動計画について御説明いたします。

資料1-2をお開き願ひます。

本協議会は、全議員の皆様にご参集いただく全員協議会としておりますことから、可能な限り御出席いただけますよう、定例会会期中でかつ本会議がある日に開催する予定としております。

まず、第1回協議会については、本日6月13日でございますが、協議項目にのっとり、改めて両大会に関する情報の共有を図った上で、両大会の成功に向けた県議会における取り組みを協議していただく内容としております。

次に、第2回協議会は、第3回定例会中の開催を予定しております。議員の皆様方に御参加いただきます両大会の開会式、閉会式の詳細御説明や、間近に迫る両大会競技への応援など、参加促進についての協議を予定しております。

第3回協議会は、両大会終了後の第4回定例会中の開催を予定しております。両大会の結果報告とあわせて、選手やボランティアなど、実際に参加した方々と意見交換をすることを通じて、両大会の成果を今後の本県のスポーツ振興や地域活性化に結びつけていただくための協議の場にしたいと考えております。

活動計画(案)については、以上でございます。よろしくお願ひいたします。

川津会長 ただいま事務局に説明させましたとおり、本協議会の目的は、目の前に迫った両大会の成功を期して、議会及び議員が自らどのように行動すべきかを共通認識するため協議することにあります。

協議会の概要及び活動計画(案)について、何か御意見等ありましたらお願ひをいたします。でございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

川津会長 よろしいですか。

それでは、活動計画(案)につきましては、原案のとおり決することといたしたいと思ひますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

川津会長 それでは、そのようにさせていただきます。

続きまして、両大会に関する情報の共有を図る上で、開閉会式や競技日程等の概要について、石田国体・障害者スポーツ大会局長より説明を願ひます。

石田国体・障害者スポーツ大会局長 大変お世話になっております。国体局の石田でございます。

このたびは、国体・障スポの成功に向けまして、県議会でこのような協議会を立ち上げていただき、本当にありがとうございます。心からお礼申し上げます。

それでは、お手元に配付してあります資料2につきましては、内容を説明させていただきます。

1 ページを御覧ください。

1 国体・障害者スポーツ大会の概要等についてです。

左側が国体、右側が全国障害者スポーツ大会について記載しております。

もう既に皆さん御存じのことかとは思ひのですが、開催期間、上から3段目でございますが、国体が9月28日土曜日から10月8日火曜日まで11日間、障害者スポーツ大会は10月12日土曜日から14日までの3日間となります。ただし、会期前として、9月7日から、体操、水泳、ビーチバレーボールが開催されております。

表の下のほうに観覧者募集という欄がございますが、開閉会式の一般観覧者につきましては、今月の28日まで、今募集しております。両大会の開閉会式、4回ございますが、それぞれ5,000人を募集しております。申し込み多数の場合は、抽選により決定することとなっておりますが、もう既に国体の総合開会式だけは8,000人、9,000人近い方から御応募をいただいている状況でございます。

2 ページを御覧いただきます。

両大会の開催に向けた現状でございます。

両大会における参加見込み数は、参考1の表のとおり、国体は11日間で延べ70万人から90万人を、障スポ大会は3日間で延べ9万人を見込んでおります。

県民の認知度でございますが、1年前ですが、平成30年7月の県政世論調査では、認知度が約71.6%となり、その前の年の調査より17ポイント上昇したところでございます。

次に、(3)天皇陛下御即位に伴う冠称付与でございます。これは一番新しい情報です。天皇陛下が御即位されて初めての国体・障スポ大会となることから、両大会の名称に「天皇陛下御即位記念」という冠称を付与することになります。

今日の午後、日本スポーツ協会で開催されます国体委員会というものがあるのですが、そちらで決定しまして、公表は午後4時になります。

今後、私どももこの時間に合わせて公表し、市町村にも発表し、これからつくる印刷物等は、全てできるものは「天皇陛下御即位記念」というものをきちんとつけて広報していきたいと思っております。

すみません、4時までは御内密にお願いします。

3 ページです。

2 広報・県民運動事業等についてです。

(1) 広報活動の展開につきましては、広報媒体による宣伝や、イベントによるPRに加え、オフィシャルショップの開設、チームいばらき新ユニフォーム製作などに取り組んでおります。

なお、新しいユニフォームにつきましては、今月6月23日日曜日に開催いたします100日前イベントにおいて披露したいと考えています。議員の皆様にも、別途、御案内させていただきます。

また、県議会でも御質問、御提案いただきましたが、新しいユニフォームにつきましては、一般販売もいたしますので、ぜひ議員の皆様にも御購入を検討していただければ幸いです。

4 ページを御覧願います。

県民運動の推進です。

いきいきゆめダンスの普及、花いっぱい運動、応援ポスターのコンクール、都道府県応援団の結成など、両大会の機運醸成や来県者を心のこもったおもてなしで迎えるために県民運動を推進しています。

5 ページを御覧願います。

ボランティアの養成状況です。

両大会の運営のためには多くのボランティアの協力が必要になります。運営や広報以外に、手話や要約筆記を行う情報支援ボランティア、役員・選手の介助・誘導を行う選手団サポートボランティア等を養成しておりますし、にございますが、競技審判員等、競技補助員といたしまして、高校生8,000人以上に御協力をいただき、当日活躍していただくこととなっております。全部合わせますと1万人以上の方々、2万人近い方々に御支援いただくということでございます。

このほかにも、それぞれの市町村でいろいろなボランティアさんがいらっしゃるということで、数はもっともって増えていくと思っております。

下のところの(4)障害者スポーツ普及定着事業でございますが、これは全国初の取り組みでございます、筑波大学に寄附講座を設置しまして、障害者スポーツの専門の指導者の養成を始めております。もう3年目になります。

6ページを御覧願います。

(5)文化プログラムでございます。

県民総参加の実現に向けまして、スポーツだけでなく、文化や芸術活動を通して多くの県民の皆様にも両大会へ参加してもらおうとされています。全市町村に御登録いただいています。既に416事業となっております、ここ8年間の国体の中では最大の数の文化プログラムの数になっています。

この中に、全都道府県対抗eスポーツ選手権もございまして、こちらも文化プログラムの一環として行うものでございます。

7ページを御覧願います。

大変細かくて恐縮でございますが、国体、障スポ、それぞれ開閉会式のタイムスケジュールを記載してございます。議員の皆様にも御臨席賜りたいと考えておりますので、後ほど詳しく御説明させていただきます。

8ページを御覧願います。

4競技施設の整備状況についてでございます。

常設施設につきましては、競技直前に行いますピッチャーマウンドの撤去以外、もう全て完了しております。仮設施設につきましては、競技開催に合わせて整備を進める予定です。

また、トイレの洋式化は、調査特別委員会で大変御議論をいただいたところでございますが、おかげさまをもちまして、かなり整備が進んだところでございます。

9ページの開催スケジュールを御覧ください。

5月の真ん中のところにありますが、デモンストレーションスポーツ5月19日～10月6日となっておりますが、国体競技の一つであるデモンストレーションスポーツ、もう既に下妻のEポートを皮切りに5月19日から始まっております。こちら、23市町村で31競技でございますので、ぜひこちらの応援のほうもよろしくお願ひしたいと思います。

この後につきましては、先ほど申し上げましたが、6月23日に100日前セレモニー、そして、7月26日、常任委員会・総会がございまして、こちらには御出席をいただければと思います。そして、9月にリハーサルで、その後は本番という形でございます。

10ページを御覧願います。

県庁内の実施組織でございます実施本部ということで、4月1日付けで知事を本部長とする実施本部を設置いたしました。

式典当日の体制ですが、国体は4チーム制で、総合開会式には1,300人、障スポは5チーム制で、開会式に1,900人のスタッフを動員して万全の体制で臨みます。

11ページに実施本部の組織図を記載してございますので、御覧おき願います。

2人に1人、あるいは3人に1人ぐらいの県職員がこの国体・障スポにかかわっていくような形になります。

次に、12ページをお願いいたします。

最後に、茨城国体・障スポ大会の新たな取り組みです。

これまで、県議会の調査特別委員会や文教警察委員会、あるいは一般質問等々、議員の皆様

様から大変いろいろな御提案をいただきまして取り組んできたところでございますが、おかげさまで、今まで行った国体の先催県では行っていない新たな取り組みを数えましたら5つございました。一部御紹介したいと思います。令和の幕開けにふさわしい国体になればと思っています。

まず、上のほうにあります。スポーツの振興では、新規の競技として、国体では、水球女子、トランポリン、女子の自転車ロードが、障スポ大会では、精神障害者による卓球が新しい種目として追加になります。

茨城の魅力発信のところでは、eスポーツ選手権の実施や、チームいばらきのユニフォームの一新、障害者スポーツ大会とガルパンのコラボによるイメージアップ等、障害者スポーツ大会の観覧者を何とか増やしたいということで、こちらの仕掛けも増加対策を行っています。

県民総参加のところでは、これも全国初だと思いますが、聴覚障害を持つ学生や特別支援学校の生徒さんが、今まではボランティアをされる側が多かったのですが、ボランティアをする側に回ると、運営側に回るといような取り組みもいたします。

来場者の利便性向上では、キャッシュレス決済ですとか、こちら県議会でいろいろ御議論をいただきましたが、フリーWi-Fiの設置、あるいは動画の配信など、今まで議員の皆様のお指導・御支援のおかげで数々の新しい取り組みを進めることができいております。引き続き御支援を賜りたいと思います。

以上が、資料2についての御説明でございます。

次に、両大会の案内といたしまして、国体・障害者スポーツ大会の開閉会式に係る議員の皆様への御案内事項、こちらを御覧願いたいと思います。

この式典、4日間あるのですが、この当日の皆様は足です。どういうふうにして会場に来ていただくかという御提案でございます。ぜひこの4つの開閉会式に御出席賜りたいと考えているところなのですが、式典当日というのは会場周辺の渋滞が予想されまして、自家用車の乗り入れが極端に制限されます。また、皇族の方が御臨席になるため、警備の関係でさまざまな制約が出てきますことから、議員の皆様を安全かつ円滑に時間までに必ず会場までに御案内するため、県庁から会場までの専用バスを御用意させていただきます。うちのほうの提案といたしましては、式典当日に、一度県庁にお集まりいただいて、専用バスで会場まで送迎させていただけたらなというふうに考えております。御協力いただければありがたいと思います。

また、式典当日の詳しいスケジュールを中段にまとめてございますが、また直前の9月議会に開催される2回目の協議会で改めて御説明させていただきます。

次に、役員懇談会なのですが、次のページです。

9月28日の国体の総合開会式の終了後に、日本スポーツ協会の主催によります役員懇談会が水戸市内のホテルで開催されます。これは調整中ではございますが、天皇陛下御臨席を今調整しておりまして、このもとに行われるレセプションでございます。こちらにつきましても、日本スポーツ協会から議員の皆様へ御案内が届くと思いますので、ぜひ御臨席を賜りたいと思います。

この役員懇談会がございますことから、4回ある開閉会式の中で、特に国体の開会式につきましては、皆様一緒にこちらから笠松に行ってください、笠松から懇談会のホテルに一



緒に行っていただくということが一番スムーズかなというふうな形で考えておりますので、御検討いただければありがたいと思います。

なお、別様で印刷してあります御出席の確認につきまして、必要事項を御記載いただきまして、議会事務局宛てで御回答いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

最後になりますが、日本スポーツ協会及び障がい者スポーツ協会から、委員の皆様にも両大会の役員としての委嘱状が届いております。後ほど、各ブースにお届けいたしますので、よろしくおさめをいただければと思います。

冒頭も申し上げましたが、こちらの協議会を設置いただいて応援していただけることを本当に心強く思っておりますし、その御支援に報いるように、教育庁、あるいは市町村、関係団体としっかり連携して精いっぱい取り組んでまいりますので、どうか最後まで御支援、御指導をよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

川津会長 ありがとうございました。

ただいまの説明に関して、何か御質問等ございますか。ございませんか。

ほかに何か御質問はございませんか。ただいまの部分、またほかにございませんでしょうか。

ないようですので、そのようなことで御理解を願いたいと思います。

続きまして、両大会の成功に向けた県議会における取組について協議いたします。

資料1 - 3のいきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会の成功に向けた行動指針案を御覧いただきます。

執行部からの説明もありましたとおり、本県の大イベントである両大会を成功させるためには、県民の代表であり、県民に最も近い立場である県議会議員が率先して機運醸成を図り、大会を盛り上げていくことが重要であります。

そこで、議会及び議員が自らどのような行動をすべきかを共通認識するため、私のほうで行動指針の案を作成いたしましたので、事務局から説明をさせます。

大川政務調査課長、お願いします。

大川政務調査課長 それでは、行動指針案について御説明させていただきます。

まず、1の基本的な考え方でございますが、5つの段落により構成しております。

1段目、2段目では、本県が総力を挙げて臨む必要があることを記載しております。

3段目では、調査特別委員会での調査・検討など、県議会におけるこれまでの取り組みについて記載しております。

4段目、5段目では、さまざまな活動を通じて、両大会に関する情報や本県の魅力を積極的に発信し、来県される方々への心のもったおもてなしに努めるなど、両大会の成功に向けて率先して取り組みを推進していかなければならないという基本的な考えに基づき、県議会及び議員の活動指針を定めることを記載しております。

次に、2の県議会及び議員の行動指針ですが、基本的な考え方にに基づき、5つの項目を掲げてございます。

まず、1つ目、両大会の普及啓発として、あらゆる活動を通じた両大会の認知度向上と県民総参加の機運醸成を図ることを記載しております。

次に、両大会への参加として、炬火イベントなどへの参加や競技などへの応援、選手の激

励など、県民の先頭に立って両大会の盛り上げに努めることを記載しております。

次に、来県者へのおもてなしとして、来県者を心のこもったおもてなしで迎えるよう、県民一体となったおもてなしに努めることを記載しております。

次に、スポーツの推進として、競技などの紹介やデモンストレーションスポーツなどへの参加などを通じて、県民のスポーツへの意欲や関心の向上、本県スポーツ文化の振興に努めることを記載しております。

最後に、茨城県の魅力発信として、両大会を機に、本県が誇る多彩な地域資源を積極的に発信することを記載しております。

行動指針案については、以上でございます。

よろしく願いいたします。

川津会長 ただいまの説明について、何か御意見等ございましたらお願いをいたします。

村上議員 石田さんなのですが、天皇陛下がご着席されているのはわかるのですが、その以前、おそらく高速で来られて、沿道を通られるのだと思うのですが、沿道でのお出迎いのセレモニーなどはあるのですか。旗を振ったりとか、その計画があれば教えてください。

川津会長 石田局長、よろしいですか。

石田国体・障害者スポーツ大会局長 御来県が電車になるのか車になるのかちょっとまだはっきりしていない状況ですので、はっきりし次第、また皆様にお伺いしてという形になるかと思えます。

川津会長 よろしいですか。改めてまた9月の議会でもございますから、そのようなことでまたお示しをしたいと思えます。

今の点でございますが、行動指針について、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

川津会長 よろしいですか。

異議がないようですので、そのように進めさせていただきます。

その他、何かございますでしょうか。その他、この際、何かございますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

川津会長 ないようですので、それでは、本日の議事は全て終了いたしました。

---

川津会長 次回の協議会は第3回定例会中となります。日程が決まり次第、議員各位にお知らせをしたいと思えます。

それでは、これで本日の協議会を終了いたします。ありがとうございました。

午前11時閉会

# 国体・障害者スポーツ大会推進協議会 (第2回)

茨城県議会

---

---

令和元年9月10日(火曜日)午前10時30分開会

議事堂1階大会議室

---

本日の会議に付した案件

- (1)両大会に関する情報の共有
- (2)両大会への参加促進
- (3)その他

---

富田事務局長 おはようございます。

定刻となりましたので、これより、第2回国体・障害者スポーツ大会推進協議会を開催いたします。

本協議会は、茨城県議会会議規則第126条第4項の規定により設置され、会長は議長となっておりますので、川津議長よろしく願いいたします。

---

川津会長 皆さんおはようございます。

それでは、これより、国体・障害者スポーツ大会推進協議会を開会いたします。

---

川津会長 初めに、本日の協議会記録署名議員を指名いたします。

村本議員と村田議員をお願いいたします。

---

川津会長 次に、本協議会の事務局職員並びに執行部からの出席者につきましては、お手元に配付の出席者一覧を御覧いただくことで御紹介にかえさせていただきます。

それでは、これより議事に入ります。

本協議会の目的は、両大会の成功を期して、議会及び議員が、自らどのように行動するべきかを共通認識とするため、協議することにあります。

いよいよ、茨城国体が今月28日に、全国障害者スポーツ大会が、来月12日に開幕いたします。両大会には、「天皇陛下御即位記念」の冠称が付与され、御即位後、はじめて天皇陛下の御臨席を賜る大会として、本県にとって大変名誉なことでもあります。

多くの注目が集まる中、県議会議員においては大会役員として、両大会の開・閉会式などに出席し、参加する選手・関係者の激励や、来県する方々をおもてなしする、重要な役割も担っております。

そこで、両大会の開・閉会式に臨む県議会議員としての留意点などについて、石田国体・障害者スポーツ大会局長より説明を願います。

石田国体・障害者スポーツ大会局長 おはようございます。

貴重なお時間をいただきまして、説明の時間をとっていただきありがとうございます。

まず、冒頭に一言本当に心から御礼を申し上げたいのは、この国体ができましたのも、東

日本大震災の時の3月議会で、第74回国民体育大会招致に関する決議ということで御決議いただいて、その年の7月に日本スポーツ協会から内々定をいただいで以来8年、その時の招致に係る議決がなかったら今日はなかったということで、本当に県議会の皆様の御判断と今日まで後押しして下さった御支援に心から御礼を申し上げたいなと思います。その当時の資料を見ますと、復旧・復興の中で、しっかり復旧・復興を成し遂げて、スポーツで元気な茨城を発信しようと、そういった文言がありまして、まさにそのとおりになったなど、74施設国体会場ございますが、笠松にしましても、サッカー場の鹿島スタジアムにしましても、みんな色々震災で被害を受けたところが、見事に復旧・復興し、さらに、国体レベルの大会ができるまでになったというのも、本当に県議会の皆様の御支援と御指導の賜物だと思います。本当にありがとうございます。

今日はですね、既にもう国体につきましては、デモンストレーションスポーツあるいは公開競技ということで、それぞれの市町村でもう始まっております。また、先週末ですね、新体操、日立だったのですが、これが3位です。トランポリン、稲敷でやりましたけれども、男子2位、女子3位ということで、想定以上の成績がとれております。このいいスタートが切れましたので、皆様応援をまたお願いしたいと思います。今週ももう既に明日ですか、9月11日は、潮来でオープンウォータースイミング、その後、12日がアーティスティックスイミング、それから体操、ビーチバレーと目白押しで、会期前競技が始まってまいりますので応援よろしくをお願いいたします。

それでは、資料2を御覧願います。

1～2ページにつきましては、議員の皆様の開会式・閉会式の出席状況について取りまとめたものです。大変多くの議員の皆様にご出席の回答をいただきましてありがとうございます。現在、IDカードの発行手続きを進めております。

続きまして、3ページをお開き願います。両大会の開会式・閉会式に御来場される際の留意事項について御説明いたします。

まず、来場方法なのですが、6月のこの第1回の国体推進協議会の際にも説明させていただきましたけれども、式典当日は大変会場周辺の渋滞が予想されますし、自家用車の乗り入れが制限されているということで、議員の皆様を円滑に御案内するため、県庁から専用バスを御用意させていただきます。

式典当日、4式典とも同じなのですが、大変でもですね、一旦県庁にお集まりいただきまして、専用バスに乗っていただければと思います。それぞれの式典には議会事務局の協力を得まして、議会事務局の職員さん2人が随行して、御案内してくれるということです。

バスの出発時間なのですが、表にございますように、記載のとおりなんですけれども、式典当日は大変多くのバスが会場周辺を行き来しております。バスの運行時間を分刻みで管理させていただいております。大変言いにくいんですが、出発時間にはくれぐれも遅れないようにですね、すみません、上から目線というわけじゃないんですが、なんとか時間厳守でお願いできないかということで、もし専用バスに乗り遅れてしまった時には、勝田駅又は東海駅からのシャトルバスでお越しいただくしかなくなってしまいますので、どうかよろしく願いいたします。すみません。

それから、急遽欠席されるという場合には、前日までに議会事務局に御連絡いただきますようによろしくをお願いいたします。

次に、持ち物です。1番のIDカードですが、これは会場に入場するには必ずIDカードが必要となるんですけれども、皆様のIDカードはうちのほうで作成しましたら、議会事務局にお渡ししておきます。議会事務局のほうで預かっていただいて、当日のバス乗車の際にお渡しさせていただきます。

2の身分証明書なんですけど、入場の際にはこれ例外なく本人確認が必要になってまいりますので、県警との取り決めでございます。運転免許証ですとか、パスポートなど、本人であること、顔写真付きのものですかね、を是非というか、お持ちください。これは絶対なので、こちら絶対忘れないようによろしく願いいたします。

その下の3番なんですけど、役員懇談会、これは日本スポーツ協会が主催で、プラザホテルで行う、陛下もいらっしゃる事が決まりましたけれども、その役員懇談会の参加証なんですけど、これはですね、IDカードとは別に役員懇談会の参加証が必要になります。御自宅に日本スポーツ協会から直接郵送されますので、絶対にそれを忘れずに持ってきてください。開会式の日、バスに乗るまでにですね、身分証明書と役員懇談会のIDカード、これだけは必ずお持ちください。よろしく願いいたします。

次に、服装なんですけど、ロイヤルボックスや式典ステージに登壇する議長・副議長以外は、式典も役員懇談会も特に決まりはございませんが、御提案ということで記載させていただきました。

まず、開会式・閉会式、入場行進を行う方7人いらっしゃるんですけれども、県体協から既に連絡があったかと思いますが、役員の方はブレザーに国体ネクタイ、国体ピンバッジ着用でお願いいたします。競技団体代表として行進される方は選手団ユニフォームとなります。

(2) 大部分の方はこちらかと思うんですけれども、背広に国体ネクタイ、女性には国体スカーフ、それに国体ピンバッジを着用していただくのが無難かなと思います。ただし、天候にもよりますけれども、ネクタイやスカーフは暑ければ、はずしてしまっても構わないと思います。それから、ユニフォームをお買い求めいただいた方は、御用意なされた方は、せっかくですので、ユニフォームもよろしいのではないかなと思います。

次に、2の役員懇談会の服装なんですけれども、これは、役員懇談会は、基本的に撮影が禁止されておりますので、私たちも全く映像を持っていないので、御案内できなくて大変申し訳ないんですけれども、入場行進した各県の選手団はそのままユニフォームでいらっしゃいますので、ユニフォームのままで差し支えはありません。しかし、当日雨だったりということも考えられますので、競技場から県庁のほうにバスを戻しまして、着替える時間を確保いたしました。専用バスは笠松から一旦県庁を経由して水戸プラザホテルに向かうよう調整しましたので、役員懇談会に出ない方は、県庁で解散となります。出席する方で着替えをしたいという方は、20分程度時間を用意しましたので、あらかじめ県庁に着替えを御用意願います。20分という短い時間なんですけど、役員懇談会の開始時間とバスの運行時間を調整した結果、ぎりぎりの時間でございますので、御理解を賜りたいと思います。

なお、プラザホテルの駐車場は、警備の関係であらかじめ決められた台数の車両しか駐車できないためですね、開会式に出席せず、役員懇談会のみ出席する議員の先生方につきましても大変申し訳ございませんが、県庁に車をおいて皆様と一緒に県庁からの専用バスに乗っていただけるように御協力をお願いしたいと思います。開会式に出られないけれども役員懇談会は出られるという先生方も2・3人いらっしゃいますので、大変申し訳ありませんが

県庁で合流願います。

次に、荒天時ですね、4ページが一番下、昨日の台風のような状況ですが、荒天時の場合なんですけれども、台風や大雨などの悪天候で笠松で式典が実施できないと判断した場合には、県庁の9階講堂で規模を大幅に縮小して式典を行うこととしてます。式典の入場行進など何もありません。

荒天時の判断は、式典前日の夕方、文科省、日本スポーツ協会、県の3者で協議して決めることになってます。もしこの時点で、笠松では実施できないという荒天時対応の判断をした場合には、皆様には速やかにFAXでお知らせいたします。一般の方への周知はホームページや、専用のテレフォンスービスなどでの案内となります。

なお、会場の収容人数や警備の都合もありまして、荒天時の際に出席をお願いするのは、議長と副議長をお願いしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

5ページからは、それぞれの式典に御出席する皆様の一日のタイムスケジュール、何時に、どこで、何をさせていただくのかを記載した資料を添付させていただきましたので、後ほど御確認いただければと思います。式典当日は何かと行き届かない点多々あるとは思いますが、御容赦いただければと思います。よろしく願いいたします。

それから、参考資料としてですね、インターネット配信の資料をお手元に、参考資料となっている、この細かい資料で恐縮なんですけど、国体チャンネル配信スケジュールという資料があるかと思えます。これも県議会の皆様からテレビがない県なんだが、ネット配信をしたらどうかという御提案をいただいて、日本体育協会と調整した結果、国体としては初めて、全決勝を中継するということができるようになりました。日本体育協会からも大変感謝されたところです。9月7日の体操やトランポリンはもう終わってしまったんですが、アーカイブということで、映像残っておりますので、是非見ていただけたらありがたいと思います。国体のホームページを開いていただくと、国体チャンネルとありますし、あるいは国体チャンネルで検索していただいても、すぐにでると思います。

特に、トランポリンなどは、前のオリンピックの方の解説もついていて、なかなか分かりやすい映像となっておりますので、是非御覧いただければと思います。

それからですね、先日ブースのほうに「るるぶ」を置かせていただいたんですが、こちらもですね、国体で初めて「るるぶ」で分かりやすい観戦ガイドということで作らせていただきました。是非こちらも御活用いただいて、観戦と応援のほうをよろしく願いできたらありがたいなと思います。

両大会終了まで、最善を我々尽くしてまいります。どうか議員の皆様方には最後まで応援いただけるように、御指導、応援の御支援をいただけるように心からお願い申し上げまして説明とさせていただきます。ありがとうございます。よろしく願いいたします。

川津会長 ありがとうございます。

ただいまの説明に関して、何か質問等ございましたら、お受けしたいと思うんですけれどもいかがでしょうか。

下路議員 役員懇談会はジャージでいいんでしょうか。

石田国体・障害者スポーツ大会局長 はい。大丈夫です。

川津会長 他にありますか。

石田国体・障害者スポーツ大会局長 ユニホームのままお出になっていました。そういっ

た方もいっぱいいらっしゃいます。

川津会長 他にございますか。よろしいですか。ないようですので次へ移ります。石田局長ありがとうございました。

続いて、国体総合開会式への天皇陛下の御臨席を賜るにあたりまして、石毛総務部知事公室長より説明を願います。

石毛総務部知事公室長 それでは、国体への行幸啓について御説明をさせていただきます。

資料3の1ページをお開き願います。去る8月28日に、宮内庁から、本県国体への天皇陛下の行幸について発表がございました。皇后陛下も御体調に支障がなければ、両陛下そろっての御来県になるとのことでございます。

日程につきましては、2ページを御覧いただきたいと存じます。9月28日から29日の1泊2日で、臨時専用列車、いわゆるお召列車を利用されての御来県となります。主な内容といたしましては、初日は、勝田駅に御到着後、笠松運動公園陸上競技場で開催される総合開会式に御臨席をされ、夜にはお宿所でもある水戸プラザホテルで開催される国体役員懇談会へ御臨席をされます。

2日目は、午前中に、日立市の池の川さくらアリーナで卓球競技を御覧いただき、そののち、国民宿舎「鵜の岬」において、大会関係者との御会食をされるとともにウミウの捕獲場を御視察されることになっております。

午後は、森林総合研究所「林木育種センター」で、林業用種苗の品種開発など、施設内を御視察いただきまして、そののち日立駅から列車でお帰りになれる日程でございます。

天皇陛下の御来県は、皇太子時代の2008年、第23回国民文化祭にお越しいただいて以来11年ぶりであり、両陛下そろっての御来県は、2003年の第16回アジア知的障害会議以来16年ぶりとなります。

天皇陛下がお通りになる沿道には、一般県民の方々による奉送迎の場所を設置することで、関係市町村や警察と調整を行っているところでございます。

なお、皇室の方々の御来県につきましては、国体開会式への行幸啓だけでなく、国体閉会式及び障害者スポーツ大会の開・閉会式、さらに両大会の競技の御覧に、多くの方々に御来県をいただけるよう宮内庁と協議調整を行っているところでございます。今後、順次、宮内庁において、決定・公表されることになっております。

県といたしましては、行幸啓の対応に万全を期して準備を進めてまいりたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。説明は以上でございます。

川津会長 ありがとうございました。

ただいまの説明に関して、何か質問等はございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

川津会長 ないようですので、次に移ります。石毛公室長ありがとうございました。

続きまして、両大会の成功に向けた本協議会の決意表明（案）について協議いたします。

資料1の天皇陛下御即位記念「いきいき茨城ゆめ国体2019」・「いきいき茨城ゆめ大会2019」の成功に向けた決意表明（案）を御覧ください。

両大会が本県で開催されるにあたっては、これまで、県議会においても様々な活動を通じて、大会の盛り上げに尽力してまいりました。

国体においては、既に新体操などの競技が始まり、本県選手が好成績を挙げるなど、熱戦

の火ぶたが切って降ろされております。両大会の成功と茨城の一層の発展を期して、県議会としても全力で応援していく決意を表明するため、私のほうで（案）を作成させていただきましたので、事務局に説明させます。

大川政務調査課長。

大川政務調査課長 それでは、決意表明（案）について御説明させていただきます。

お手元の資料1の1ページ目をお開き願います。

1段目、2段目では、いよいよ開催される茨城国体並びに全国障害者スポーツ大会にあたっては、関係機関や県民が一体となって、開催準備や機運醸成などに取り組んできたことを記載するとともに、3段目、4段目では、県議会においても、これまで調査特別委員会での調査検討や県への提言、本推進協議会における協議等を通じて、さらには各議員の精力的な活動により、両大会の機運醸成と成功に向けた取り組みを進めてきたことを記載しております。

次の5段目、6段目では、国体における天皇杯、皇后杯獲得に向けた競技力向上の取り組みと、その成果の一つとして冬季競技における躍進に触れるとともに、全国障害者スポーツ大会については、今大会の様々な取り組みを契機に、誰もが幸せに暮らせる共生社会づくりを本県から発信していくことについて記載しております。

7段目では、両大会の成果を、本県スポーツの振興や地域活性化につなげるよう、大会後を見据えた取り組みにも努めていくことを記載しております。

最後に、本大会が「天皇陛下御即位記念」の冠称が付与され、御即位された天皇陛下をお迎えする初めての大会として、新たな時代にふさわしい大会となるよう、県民とともに全力で取り組むことを、本協議会の決意として表明することを記載しております。

本協議会における決意表明（案）については、以上でございます。よろしく願いいたします。

川津会長 ありがとうございます。

ただいまの説明について、何か御意見がありましたらお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

川津会長 それでは、決意表明につきましては、原案のとおり決することにいたしたいと思いますが、これに、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

川津会長 御異議なしと認め、本件は、原案のとおり決しました。

以上で、本日の議事は全て終了いたしました。

---

川津会長 次回の協議会は第4回定例会中となっております。日程が決まり次第、議員各位にお知らせをいたします。

それでは、これで本日の協議会を終了いたします。御苦労様でした。

午前11時閉会



# 国体・障害者スポーツ大会推進協議会 (第3回)

茨城県議会

---

---

令和元年12月10日(火曜日)午前10時30分開会

議事堂1階大会議室

---

本日の会議に付した案件

- (1) 両大会の結果等について
- (2) 関係者からの意見・所感等について
- (3) 意見交換

---

川津会長 皆さんおはようございます。

定刻となりましたので、これより国体・障害者スポーツ大会推進協議会を開会いたします。

---

川津会長 初めに、本日の協議会記録署名議員を指名いたします。

飯田議員と外塚議員にお願いいたします。

---

川津会長 次に、事務局並びに執行部の出席者については、お手元に配付の出席者一覧を御覧いただくことで御紹介にかえさせていただきます。

また、本日は、先の茨城国体で御活躍されました選手の皆様、また、残念ながら中止となりましたが、全国障害者スポーツ大会の本県代表並びに、両大会の運営を支えて頂きましたボランティアの皆様に、御出席頂いておりますので御紹介いたします。

初めに、国体、剣道・少年男子、本県代表の鈴木龍生様。

次に、ウエイトリフティング・女子、本県代表の安嶋千晶様。

次に、全国障害者スポーツ大会、砲丸投げ、ソフトボール投げ、本県代表の小関雄太様。  
なお、小関様は耳が不自由でありますので補助者がついております。

次に、両大会の運営ボランティアなどとして活躍されました茅根芳幸様。

次に、高校生ボランティアとして活躍されました水戸女子高等学校の賀川萌香様、同じく、渡部愛林様。

皆様におかれましては、お忙しい中、御出席いただき、誠にありがとうございます。会を代表して、心から御礼を申し上げます。皆様の経歴等につきましては、お手元に資料を配付しておりますので、詳細は割愛させていただきます。

それでは、これより議事に入ります。

初めに、御承知のことではありますが、茨城国体の結果について、改めて執行部より御報告願います。

柴原教育長、お願いいたします。

柴原教育長 それでは、お手元の資料1-1を御用意願います。

第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」の結果について、私のほうから御報告させ

ていただきます。第74回国民体育大会におきましては、1月30日の冬期国体からスタートいたしまして、10月8日に終了いたしました。本県選手団としては、男女総合2,569点、そして、女子が1,331点を獲得いたしまして、天皇杯、皇后杯の両賜杯を獲得することができました。なお、本県が両賜杯を獲得するのは、前回の茨城国体以来でございます。

次に、2の前回大会との比較でございます。入賞競技・種目数は、38競技209種目ございまして、昨年より98種目増やすことができました。そのうち、上位入賞、1位から3位までの種目数は、114種目で昨年よりも大幅に75種目増加しております。種別毎の昨年度との比較、そして増加点数につきましては、表のとおりでございます。団体種目の入賞数は、前回よりも42種目増加いたしまして、今回は65種目でございます。そのうち、上位入賞種目数は、33種目ございまして、前回よりも23増えております。配点の多い団体競技の優勝、特に、上位入賞数が大幅に増加したことによりまして、大きく得点を伸ばすことができ、天皇杯、皇后杯の獲得につながったものと考えます。

3にありますように、両賜杯獲得の要因でございますが、まず1つ目、前回の福井国体では一桁順位を目指しておりましたが、16位と不本意な成績に終わってしまいました。その結果を分析いたしまして、強化計画を一から練り直し、それを着実に実施をしまいいりました。2つ目でございますが、特に、団体競技では、強豪チームとの練習試合、強化合宿を積極的に実施したことによりまして、チームワークや競技力が向上し、上位入賞の数が増えた、その結果に結びついたと考えております。また、開催県ということでブロック予選が免除されましたことで、出場競技、種目数が大幅に増えたこと、それも、優勝競技種目数の増加につながったと考えております。そして、冬季競技、そして、大会前協議、水泳、体操、ビーチバレーボールでございますが、それらで好成績を収めてくれたことが、今大会に非常に良い影響を与えたと考えております。最後に、各会場で多くの県民の皆様方が、本県選手団に大きな声援を送ってくれた、このことも選手達が持っている力を、全力であるいは力以上のものが発揮できた、そのように考えております。今回のことを通しまして、国体の成果は、選手のみならず、県民の皆様、ボランティアの皆様、議会の皆様をはじめ、一丸となって得た結果だと考えております。

以上で私の報告を終わります。どうもありがとうございました。

川津会長 ありがとうございました。

次に、全国障害者スポーツ大会については、中止となったものの、これまで様々な取り組みが行われてきました。

その取り組み等について、関保健福祉部福祉担当部長、お願いいたします。

関保健福祉部福祉担当部長 それでは、私からは、全国障害者スポーツ大会について御報告を申し上げます。ただいま川津会長さんからお話がございましたとおり、台風第19号の影響により開催が中止となってしまっております。今日、小関さんもお見えになっておりますけれども、万全の体制で大会に臨む準備を進めてきた我々といたしましても大変残念な思いでございます。

それでは、資料1 - 2を御覧いただきたいと存じます。

初めに、茨城県選手団の構成等についてでございますけれども、大井川知事を団長とする選手団、選手310名、監督・コーチ等の役員160名の合計470名の予定でございます。

選手の内訳は、陸上競技、水泳などの6つの個人競技に157名、バスケットボール、バ

レーボールなどの7つの団体競技に153名となっております。派遣期間は、大会前日の公式練習日を含みます4泊5日を予定していたところでございます。

次に、2でございますけれども、これまでの取り組みについてでございます。開催県につきましては参加枠が増えまして、例年になく数の選手派遣となりますことから、この大会に向けて選手育成・強化検討委員会を平成26年12月に設置し、各年度の「選手育成・強化実施計画」に基づき、強化練習会などを実施してまいりました。

今大会では、開催県の選手団として与えられました開会式での炬火リレーや選手宣誓などの役割、さらには、実際の競技において力を発揮する機会がなくなってしまうと、これまで研鑽を重ねてこられた選手の皆さんには大変残念なこととなってしまいましたが、選手の皆さんには、今後も競技を続けていただき、更なる飛躍を目指していただきたいと思います。

最後に、今後の予定でございますが、県といたしましては、全国障害者スポーツ大会の予選会となる県大会の開催をはじめ、今回のいきいき茨城ゆめ大会に向けまして、障害者スポーツに対する関心や理解が盛り上がったことから、こうした気運を一過性のものとするのではなく、誰もが楽しめるスポーツ教室の開催などをはじめ、関係団体と連携して実施し、今後とも障害者スポーツの一層の普及啓発に努めてまいりたいと考えております。

報告は以上でございます。よろしく願いいたします。

川津会長 ありがとうございます。

最後に、両大会の総括を、石田国体・障害者スポーツ大会局長、お願いいたします。

石田国体・障害者スポーツ大会局長 まず、国体・障スポの開催に当たりましては、県議会議員の皆様方には、推進協議会をはじめ調査特別委員会、常任委員会、一般質問、代表質問等で御審議いただきましたこと、また、国体の開催期間にはですね、開閉会式や各競技会に熱心に足を運んでいただきまして、各会場で盛り上げていただきましたこと、本当に多くの御支援、御指導をいただきましたこと、心からお礼を申し上げたいと思います本当にありがとうございました。

私からは、資料1-3に基づきまして、両大会の総括ということで、国体・障スポを振り返ってということでまとめさせていただきました。

まず1ページから3ページは、国体の開閉会式や式典前演技の様子でございます。「翔べ羽ばたけ そして未来へ」のスローガンのもと、令和初となる茨城国体は、参加者総数が771,188名と多くの皆様に御参加いただき、盛大に終えることができました。総合開会式は、天皇皇后両陛下の御臨席をいただき、式典を開催することができました。オープニングプログラムや式典前演技など、下が5歳から上が86歳まで、4,000人を超える県民のダンスやパフォーマンスが行われました。茨城の歴史、文化、自然など全国の皆さんにアピールできたと思っております。式典を御覧になった多くの皆様から、素晴らしかった、感動したといったようなお言葉をいただきました。

次に、4ページから10ページでございますが、正式競技やデモンストレーションスポーツなど、各競技会、おもてなし広場などを載せてございます。競技会場となりました市町村には、大変素晴らしい競技運営をしていただきました。日本スポーツ協会もとにかく茨城国体は運営が素晴らしかったというようなお褒めをいただいております。市町村と競技団体のおかげだと思っております。私も茨城県選手団の応援のため、すべての競技会場に行ったので

すが、どの会場も満員に近く、観客の熱い声援が繰り広げられました。会場には小中学生が作った各県の応援のぼり旗などが飾られました。本県はじめ他県の選手からは、毎日競技会場に行くのが楽しい、こんな国体は初めてだというようなお声もいただきましたところ です。

次に、11ページは、天皇杯、皇后杯の獲得と、閉会式終了後の解団式の様子です。歴史館にしまっておかなければいけないということで、門外不出ではあるのですが、今日、そうだと いうことで、お持ちいたしましたので、天皇杯、皇后杯本物でございます。人の手で運ば なければいけないということで、我々も東京の日本スポーツ協会のほうから、車で行って持 ってきて、今はずっと歴史館に保管してあるものでございます。後々お返しして、レプリカ がくるということでございますので、本県のほうに本物があるのもあと少しだなと思いま す。賞状のほうはですね、結城紬など、県産材で担当が考えに考えて、試作を重ねた賞状にな っております。そちらも御覧いただければと思います。

目標でありました天皇杯、皇后杯を獲得することができまして、あの賞状、優勝茨城県と 書いたものは本当によかったなと思えます。今日も選手の皆さんがいらっしゃっていますが、 選手全員がチーム茨城として頑張ったくださった結果だと思っております。

12ページは、今日ボランティアの方がいらしてありますが、ボランティアの活躍の様子 でございます。今回の開催では、ボランティアの目標としてきた登録者5,200人を大幅に上 回る6,400人以上の方に御登録いただきました。ボランティアの一人一人がおもてなし の心をお持ちいただき、大会の運営面で大きな力となりました。ありがとうございました。

13ページの上段は、全国初となる全国都道府県対応eスポーツ選手権の様子です。全国で 参加した選手が15,000人、そして、勝ち抜いた選手が600人でございます。本県選手団の活 躍もあり、大変な盛り上がりがありました。メディアも2日間で140社を超える媒体の方が いらしてありました。

13ページの下段ですけれども、5月に実施しました障スポリハーサル大会、14ページの上 段は、県で11月1日から15日にかけて行った「まぼろし～のいきいき茨城ゆめ大会展」の様 子でございます。冒頭からございますが、第19回全国障害者スポーツ大会は、台風第19号の 接近によりまして、中止とさせていただきます。開催決定から8年間にわたる準備、全国 から来県する選手団、強化をしてきた本県選手、今日小関選手がいらしてありますけれども、 また、ボランティアの皆様、県民の皆様など、関係者の心情を思うと本当に残念でありまし たし、今でも申し訳なかったなという気持ちはずっと持ち続けておりますけれども、何より も、選手や県民の安全を考えた末の苦渋の選択でございました。

障スポ大会を一人でも多くの方に知っていただきたいと考え、県庁舎25階の展望ロビーに おいて、大会競技種目の紹介ですとか、メダル等の資料を展示したところでございます。期 間中に県内外から2万人を超える方に御来場いただきました。来場者は、実施される関係者 の努力が分かった等の感想をいただいたところでございます。

最後になりますが、冒頭申し上げましたけれども、長年にわたりまして、両大会の準備に 御尽力いただきました議員の皆様、そして、本当に多くの関係者の皆様、県民の皆様から 感謝を申し上げたいと思えます。本当にありがとうございました。

川津会長 ありがとうございました。

次に、御紹介しましたとおり、本日は選手の皆様、ボランティアの皆様にお越しいただい ております。両大会を通じた成果などを、本県スポーツ文化の発展につなげていくためにも、

皆様方の貴重な体験や御意見をお聞かせいただきつつ、意見交換を行いたいと思います。

それでは、鈴木様、お願いいたします。

鈴木龍生氏 こんにちは。私は、水戸葵陵高等学校3年の鈴木龍生と申します。私は、剣道競技で国体に参加しました。国体では、今まで優勝したことが一度もなく、準優勝が7回という結果があります。の中で、今回、今まで優勝がないので必ず優勝しなくてはいけないという思いで参加しました。そして、今までの稽古に加えて、合宿や遠征、トレーニングなど優勝するために気持ちだけでなく、身体の面でも色々準備をしてきました。

そして、本番当日では一回戦から熊本県と試合をしました。熊本県は私がインターハイで2位になったときに、決勝で敗れたところでした。なので、そこで勝てば、決勝まで勝てるという思いで試合をし、2対2の大將戦で勝つことができ、そこから2回戦、準決勝、決勝と危なげない試合で勝つことができました。そして、この優勝は、今まで支えて下さった方々へ感謝の形にすることができたので本当に良かったと思っています。また、剣道競技は成年男子、成年女子、少年男子、少年女子と全ての種目で優勝することができ、天皇杯、皇后杯の獲得に貢献することができたので本当に良かったと思っています。

今までの剣道人生の中で、今まで以上のたくさんの方々に応援していただいたのは、初めてのことでした。本県の実業団杯、皇后杯の獲得には県民の方々の応援やサポートの力があつたからだと思っています。今大会を通して、「チームいばらき」が団結することができて、本当に良かったと思います。私はこれから大学生になりますが、この経験を忘れず、これからも頑張っていきます。本当にありがとうございました。

川津会長 鈴木さん、ありがとうございました。

次に、安嶋様、よろしく願いいたします。

安嶋千晶氏 こんにちは。茨城県競技力向上対策本部の安嶋千晶と申します。私は、ウエイトリフティング競技、重量挙げで、スナッチとジャークの2種目おかげ様で優勝することができました。今日はパワーポイントを作ってきたので、こちらを見て聞いていただければなと思います。お題は、「縁の下の力持ちの存在」ということで始めます。

私、そこにある皇后杯を眞子様から受け取るという役をやらせていただきまして、ありがとうございました。孫の代まで自慢しますこれは。それ位いい経験をさせていただいたのですが、皇后杯を受け取った時に本当にその重みに胸が熱くなりました。たった1人で目指した目標ではなくて、顔も名前も知らないけれども、「茨城」というだけで強く繋がっていた人々と共に目指した天皇杯と皇后杯。県民が、ボランティアだったり、行政の方だったり、選手だったり、全ての県民が団結して戦って、そして46もの他県から勝利を収めたということの喜びと誇りが詰まった、ズシリと重い皇后杯でした。

なぜ天皇杯・皇后杯を獲得できたのかと聞かれると、知事をはじめ、競技力向上対策本部の小野寺本部長だったり、そういう方々は、「選手が本当によく頑張ってくれたから」とおっしゃるんですけども、私は、それは違うと言わずにはいられません。天皇杯・皇后杯を獲得できたのは、紛れもなく支えて下さった方々の熱意があつたからです。ボランティアの方だったり、行政の方だったり、そういう方々の成功させてやろうという熱意が伝わったから、私達選手は強くなることができました。私は試合の舞台上で、今まで1度も挙げたことのない105キログラムのバーベルに向かったんですけども、その時、本当に皆さんの応援だったり、これまでのサポートだったり本当に力になりました。そこで、縁の下の力持ちである皆さんのお陰で、私は国体で1番の力持ちになれました。言葉では伝え切れないほどの感謝の気持ちで胸がいっぱいです。

今年の3月に大学を卒業して、国体までの半年間、私は、茨城県競技力向上対策本部に所属したんですけれども、そのたった半年間で、記録は14キロも伸びました。この14キロというのは、私が大学一年生から四年生までの四年間をかけて伸ばした記録と全く一緒です。それくらい短期間で競技力を向上できたのは、たくさん理由はあるんですけれども、ここでは3つ大きなことをあげますと、まず生活の全てを競技に捧げられる環境があったことです。競技力向上対策本部は、仕事が練習ということで、一日練習のことだけを考えて練習して、栄養を考えた食事を作ったり、帰ってからたくさんストレッチができたり、そういうことに生活の全てを競技に向けられたことが大きな理由だと思います。2つ目は、ウエイトリフティングは団体にも個人にも強化費がついておりました。そのおかげで、物品や栄養のために必要なものをしっかり揃えることができました。3つ目は、強化費があったおかげもあり、様々な合宿を実施できました。北は北海道、南は宮崎まで行きました。そのおかげで質の高い練習ができたり、成年だけでなく、少年の選手と一緒に練習ができて、全体的にウエイトリフティング競技の競技力が向上できたと思います。

それで、茨城国体が終わりましたが、私は次の鹿児島国体に向けてスタートしました。今年1位でしたが、来年茨城県が急に弱くなってしまったら、去年の皇后杯は他県から呼んだ強い選手のおかげだったのかと。この間、プレ国体に行ったんですけれども鹿児島に、その時も他の県の方に来年は茨城は何位になるかなということで心配をされ、急に弱くなってしまったら、地元茨城の選手としてもすごく悔しいですそれは。なので、茨城国体の成果として、県全体が盛り上がりて天皇杯を獲得したということは何よりの成果だとは思いますが、それだけじゃなくて、国体を契機として、今後益々茨城のスポーツが発展して、何年先も茨城が全国でも強豪のチームであり続けられるように発展できるかどうかとても大切な国体の成果なんじゃないかなと思います。

これからも私も茨城に残って、茨城のために、これからも点数を稼げるように頑張るアスリートがいることを忘れずに今後とも御声援、御支援いただければ本当に頑張りますのでよろしく願います。御清聴ありがとうございました。

川津会長 安嶋さんありがとうございました。

次に、小関様、お願いいたします。

小関雄太氏 皆様こんにちは。株式会社ツムラからまいりました小関雄太と申します。資料2の5ページを御覧ください。今回所感を説明させていただく前に、今回は中止となってしまうましたが、障害者スポーツ大会の運営に関わっていただいた皆様、スタッフの方々、ボランティアの皆様はこの場を借りて御礼申し上げます。

本題に入りますが、今回は感想ではなく、意見を述べさせていただきたいと思います。結論から申し上げますと、障害者スポーツの出場選手の選考方法を実力で選ぶようにしてほしいという点でございます。障害者スポーツの目的としましては、障害者の自立及び障害者スポーツの普及及び啓発を促すことが目的であると私は認識しております。選考された選手の中には、残念ながら私服で練習に参加するなど、明らかに努力していない選手が多々見られました。そのような選手が出場しても、自立を促すことにならない上、障害者スポーツで敗退することで生きる自信を無くす可能性も高いと考えられます。また、ここが重要なんですが、サポートを行うスタッフやコーチのモチベーションにも悪影響があると考えています。

そのため、実力のある選手、努力を惜しまない選手を優先して選択していただければ、自分自身の自立だけではなく、選手に関わっている人のモチベーションにもいい影響を与えると考えております。

よって、障害者スポーツ大会の派遣選手選考方法は「障害者スポーツ大会でメダルを確実に獲得できる選手を派遣する」又は「努力を惜しまない選手を優先的に派遣すべき」だと考えております。また、実例として、関東に限定してしまいますが、東京都、埼玉県、さいたま市などは実力優先で選出されているようです。また、選手の派遣費用等が県税で賄われていることから、茨城県代表であるという自覚を持てる選手を選考していただきたいと考えております。

私からは以上です。御清聴ありがとうございました。

川津会長 小関様、ありがとうございました。

次に、茅根様、お願いいたします。

茅根芳幸氏 茅根芳幸と申します。よろしくお願いいたします。資料2の6ページをお開きください。いきいき茨城ゆめ国体、いきいき茨城ゆめ大会2019運営ボランティアに参加して。はじめまして、茅根と申します。本日はお招きいただきありがとうございます。今回の国体において、運営ボランティアとして活動に参加いたしました。その中で、私が、経験したこと、感じたこととお話しをさせていただきます。私は、いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会の実行委員会事務局から御案内を頂き、運営ボランティアに参加いたしました。私が指定されたのは、水戸駅総合案内所です。水戸駅総合案内所は、水戸駅改札口の前に設けられ、選手や関係者、そして、国、県内外からの多くのお客様をお迎えする玄関口です。実際、多くの方が案内所を訪れ、競技会場やバス乗り場、バスの時刻、そしてお土産売り場はどこかなど、問合せがありました。

水戸駅の場合、バス乗り場は北口と南口があり、競技会場によってバス乗り場も異なります。間違いないように注意しました。全国からお出で頂いた、選手、関係者、そして、応援の方々に、「向こうです」、「あちらです」と案内してもわかりづらいと思い、北口、南口いずれに案内する場合でも、お客様と一緒に移動し案内することを心掛けました。また、「近くの見所は」との話もあり、そのときは、「偕楽園」や「弘道館」などを紹介して、「是非、行ってください」との案内をしました。

お客様とお話した中で、鹿児島県からの方が多くありました。来年の国体開催県として、視察に来たとのことでした。案内所前のテーブルには、国体競技ガイドブック、競技スケジュール、茨城県の観光マップなどを並べて、自由にお持ちいただきましたが、鹿児島の方にもよかったですとお持ちくださいと案内しました。別れ際に「大変参考になりました」という感謝の言葉を頂き充実感を覚えました。最初は不安もありましたが、事務局の方や同じ運営ボランティアの方とのチームワークで不安は解消し、楽しく活動することができました。

そうした中、10月8日、事務局から「いきいき茨城ゆめ大会」が、台風第19号の接近で中止との連絡を受けました。既に茨城に来られた選手、関係者もあり、事務局の方々の対応の苦勞を感じずにはいられませんでした。

全国障害者スポーツ大会の全種目の中止は初めてとのことでした。しかし、その後の全国各地の被災地の状況を考えると中止は正解だったと思っています。大会に向けて準備を進めてきた選手、関係者は残念で心残りであったと思いますが、来年の鹿児島大会での御活躍を御祈念いたします。

私事ですが、今回運営ボランティアに参加させて頂き、実行委員会事務局スタッフの皆様、そして、一緒に活動した運営ボランティアの皆様と親しくさせて頂き、短い期間でしたが多くの楽しい思い出を作ることができました。私の人生の思い出の1ページに加えることもできました。最後になりましたが、大会実行委員会事務局スタッフの皆様のこれまでの骨折りに感謝申し上げます。ありがとうございました。

川津会長 茅根様，ありがとうございます。

最後に，賀川様，渡部様，お願いいたします。

賀川萌香氏，渡部愛林氏 皆さんこんにちは。インターアクトクラブ2年幹部の渡部愛林です。よろしく申し上げます。同じくインターアクトクラブ幹部の賀川萌香です。よろしく申し上げます。

それでは，資料2の7ページを御覧ください。今から水戸女子高等学校国体ボランティアの活動報告を紹介していきたいと思います。国体ボランティアと私たちインターアクトクラブの日々のボランティアについて紹介します。インターアクトクラブは現在41名で活動しています。国際交流，社会貢献のため，様々なボランティア活動をしています。

私たちが入学する前，先輩たちは4年前から国体のPR活動を行っていました。私たちが入学してからも様々なPR活動を行ってきました。上の写真は国体ダンスを踊っている様子です。国体ダンスを歌っている磯山純さんのバックダンサーを務めました。左下の写真は，障害者フライングディスク競技のリハーサルが行われ，国体ダンスを踊っている様子です。

2年続けて水戸黄門祭りで，昼から夜まで国体のPR活動をしました。たくさんの方が見に来てくれて，一緒に踊ってくれる方々がいて，とても楽しく踊ることができました。

フェンシング国体プレ大会では，初めて補助員としてお手伝いをしました。他校の方々と一緒に活動をしました。フライングディスク大会のお手伝い，フライングディスク大会のお手伝いでは，障害者の選手の補助員として活動しました。選手の人たちにディスクを渡したり，審判などをしました。本番では台風で中止になってしまっても残念でした。開会式リハーサル，国体の開会式リハーサルでは，小中学生が座る場所の確認や誘導の仕方の確認などをしました。

私たち応援団班は，左の写真のようにオレンジ色のベストと帽子をかぶり，活動をしました。活動内容としては，応援のために参加した小中学生のバスからの誘導，お弁当や飲み物の配布を行いました。茨城国体では，天皇皇后両陛下御即位記念として，両陛下が御臨席されました。レスリング競技の補助員では，本校からの補助員として参加しました。ラグビー競技では，放送，受付など，本校生徒が自分たちの仕事をしっかり努めることができました。お手伝いをした人の中には，今まで興味がなかった競技でしたが，ボランティアを機に興味を持つことができましたと言っていた方がいました。フェンシング競技では，昨年12月にリハーサル大会をした上での本大会となり，ピスト員として活動をしました。得点版の操作をリモコンを使って行い，点数をつけたり，時間の操作をしました。また，記録係も行いました。開会式にフェンシングは5日間，閉会式と長期間にわたる活動になりましたが，笑顔で頑張ることができました。

本校1年生と卒業生も国体に出場しました。白熱した戦いを間近で見ることができました。今から日頃のインターアクトクラブの紹介をします。インターアクトクラブは，部員全員がとても仲良く，元気に楽しく活動しています。私たちの目標は，ボランティア活動の実践と国際理解をはかることです。積極的にボランティア活動を行っております。あけぼの学園の文化祭に行きました。私は，サービスコーナーで無料のドリンクを提供しました。その他に食べ物を販売したり，施設の中ではコンサートが行われていました。育心園でそば打ちボランティア，そば打ちボランティアは，毎年行っている活動の1つです。障害者や高齢者の方と一緒にそば打ちをします。ヴィレッジ水戸で交流，ヴィレッジ水戸で高齢者の方と料理を



したり，一緒に折り紙をしたりと交流をしました。常磐神社でのお田植え祭，毎年参加している常磐神社でのお田植え祭の様子です。早乙女として田植えをします。また，今年植えたお米が昨日配られました。空手道関東大会でのお手伝いでは，受付係やプラカードとして選手たちを誘導しました。また，審判員さんの方たちのお茶を用意したりしました。楽器を送るボランティア，発展途上国へ楽器や文房具を送りました。きれいに分別する作業の様子です。高齢者施設はぎの郷でのお手伝い，はぎの郷でのお手伝いでは，高齢者の方と一緒に輪投げや射的などで遊びました。家族の方のたくさん来ていました。偕楽園公園花壇作り，偕楽園公園で自分が作りたい花壇を作ることができました。たくさん花壇を作ることができてとても楽しかったです。学童保育のボランティア，学童保育のボランティアでは，小さい子たちと一緒に外でおままごとをしたり，施設内では絵本を読んだりしました。春夏冬の長期のお休みの際に，グループを分け，グループワークして毎日行っています。

その他のボランティアとして，毎週金曜日に，学校近くにあるコンフォルトという介護老人ホームに行き，歌を歌ったり，一緒に折り紙をしたりと交流をします。また，依頼されたボランティアに積極的に取り組んでいます。国際交流，左上の写真はブルガリア人のリディアさんとの交流の様子です。交流後，リディアさんは実際に水戸女子学校インターアクトクラブの面会に来てくださいました。水戸女子高インターアクトクラブ「そして未来へ！！」ということで，来年行われるオリンピックのシティキャストとして大会ボランティアにも参加します。左の写真は，オリンピック研修会の時の写真です。ボランティアに必要なものについて学ぶことができました。また，右の写真は，来年行われる北関東インターハイのカウントダウンイベントの愛称，スローガンの前に3年生が立っている写真です。愛称とスローガンは，本校の3年生の作品が採用されました。これからも，笑顔のインターアクトクラブでボランティア活動を頑張っていきたいと思います。御清聴ありがとうございました。

川津会長 賀川さん，渡部さん，ありがとうございました。

ただいま，それぞれの立場から，大変貴重なお話をいただきました。せっかくの機会でありますので，質問，御意見などがあれば，お願いいたします。

なお，小関様は，口の動きと補聴器で言葉を読み取りますので，発言に際しましては，口元を大きく開け，ゆっくり発言していただくよう，御配慮願います。また，発言に当たりましては，各議員名をお示しをいただきたいと思います。ゲストの方にお示しをいただきたいと思います。それでは，どなたか発言ございますでしょうか。

設楽議員 設楽です。御説明ありがとうございました。2つあるんですが，1つ目は安嶋千晶選手に，茨城国体が終わってからも，これからも茨城が強くなり続けるためにということでしたが，具体的にどんな御声援と御支援とありますが，どんなものが必要が教えていただけたらと思います。

川津会長 それでは，安嶋様，よろしく願います。

安嶋千晶氏 ありがとうございます。選手の立場として正直な意見を言うと，強化費というのがすごくありがたくて，ウエイトリフティング競技というのは，練習場もなかなかないので，どこかに行きたいとなった時に，結構遠くの場所に行かないといけないということも多かったので，強化費があったりすると，行きたいところに，競技力向上を目指して行けたりするのでありがたいかなと思います。御声援に関しては，茨城に試合があるっていうときに，県大会がほとんどなんですけれども，他の関東大会とか，来年はインターハイも茨城なので，そういうPR活動とかが地域の方々に行き届いていれば，応援も茨城国体並みの応援が続くのかなと思います。

設楽議員 貴重な御意見ありがとうございました。強化費ということですので、是非、議会の中でも提案しながら進めていきたいなと思っております。来年インターハイ茨城ということなので、あわせてPRもできるような茨城でありたいなと思っています。次の質問は、小関雄太選手にお伺いしたいんですが、実力優先でないという説明を受けて、これからは実力優先の選手を選んでほしいということですが、具体的に障害者の皆さんがスポーツを十分に県内の皆さんがやれるような環境はまだすそ野も広がっていないような状況もあるのではないかなという現状も感じているところですけど、選手として、これから茨城県にとってもっとも必要として感じていることは、実力のある方を選ぶにあたって、具体的にどんなことが必要と考えているのか教えていただければと思います。

川津会長 小関さん、よろしくお願いします。

小関雄太氏 質問ありがとうございます。具体的には、障害者スポーツ大会に派遣される年齢を考えると、高校生が結構いるように見受けられます。障害者スポーツ大会の選考会が茨城障害者スポーツ大会という形で行われると思うんですけども、その結果と高校生が所属している団体、高校であったりとか、障害者の団体にPRを行って選考したらいいのではないかと考えています。また、障害者スポーツ大会は、色んな障害がございまして、全部で27区分あります。また、男女、そして年齢で一部、2部と分かれておりますので、分類としては100以上になってしまうんですけども、予選会の茨城県庁の障害者スポーツ大会の結果だけでなく、個人が所属している高校であったりとか団体にヒアリングを行って選考されてはどうかと考えております。以上です。

川津会長 時間の関係もあるんですけど、もう一人位いかがですか。どなたかいますか。よろしいですか。他にないようですので、以上で意見交換は終わりにいたします。御出席いただきました皆様には誠にありがとうございました。大変有意義な意見交換ができたと思います。皆様の御意見や思いを、我々、県議会としてもしっかりと受け止め、県政発展に役立てて参りたいと思います。また、本日含めた本協議会の記録は、後程、調製した上で、各議員に配布したいと思います。以上をもちまして、本日の議事はすべて終了いたしました。本協議会につきましては、本年の第1回定例会において設置されて以来、関係各位の御協力を得て、3回の会議を開催し、本日をもって終了いたします。終了にあたりまして、会を代表して、一言挨拶申し上げます。

本県は、国体において45年ぶりとなる天皇杯、皇后杯を獲得するなど、茨城県選手団の活躍は、県民に大きな夢と希望を与えてくれました。期間中は、全国から多くの方々も茨城を訪れ、相互に交流を深めるなど、活気に満ちた素晴らしい大会となりました。

一方で、全国障害者スポーツ大会は、台風第19号の影響により中止となり、安全を最優先とするやむを得ない判断でありましたが、開催に向けて準備された関係者や選手の皆様の、落胆と無念を想うと非常に心が痛むものでありました。

しかし、長年にわたる献身と努力により培われた経験は、障害のある人もない人も、誰もが共にスポーツを楽しむ文化を、ここ茨城で育んでいく礎となるものであります。来年には東京パラリンピックが開催され、障害者スポーツは、なお一層の盛り上がりを見せていくと確信いたしています。新たな目標に向けて、更なる御活躍を期待申し上げます

そして、大会の運営を支えたボランティアの皆様。来県者への心のこもったおもてなしなど、皆様の活動が大会の成功を支えたといっても過言ではありません。誠にありがとうございました。

議員におかれましても、競技会場での応援や運営への御尽力など、県議会議員としてそれ

ぞれの職責を果たされましたことに感謝と慰労を申し上げます。

また、執行部の皆様には、これまでの御努力にあらためて敬意を表します。国体の円滑な運営と競技力向上への取り組み、また、障害者スポーツ大会についても、直前まで開催に向けて必死に努力されたことなど様々な経験は、本県の大きな財産となるものであります。

来年の東京オリンピックに際しましては、本県でもカシマスタジアムでサッカー競技が行われます。この経験を活かし、世界から来県される方々を茨城の誇りと思いやりを持って迎えることができるよう、皆様方の御協力を重ねてお願い申し上げます。

両大会の開催と成功は、本県にとって大きな目標でありましたが、将来を見据えれば、これが新たなスタートになるものです。選手の皆様には、更なる研鑽と御活躍を祈念しますとともに、障害がある人もない人も、誰もが等しくスポーツに親しむことができる茨城県づくりに、なお一層の御尽力を賜りたいと思います。

結びに、議員、執行部の皆様、そして、本日御出席頂きました、選手、ボランティアの皆様、御協力まことにありがとうございました。45年ぶりに開催された茨城国体が成功裏に終わったことを祝すると共に、その成果を活かし、ここにおられる方々、そして県民の皆様と力を合わせて、茨城県のスポーツ文化の振興と地域発展に取り組んでいくことを決意し、以上をもちまして、国体・障害者スポーツ大会推進協議会を終了したいと思います。誠にありがとうございました。

午前11時30分閉会



< 参 考 资 料 >



**茨城県議会議員**  
**「いきいき茨城ゆめ国体」・「いきいき茨城ゆめ大会」**  
**の成功に向けた行動指針**

令和元年6月13日  
国体・障害者スポーツ大会推進協議会

## 1 基本的な考え方

今年、本県で45年ぶりとなる国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」が、そして本県初となる全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」が開催される。

両大会は本県のスポーツ振興と文化の発展に寄与するとともに、本県の魅力を全国に発信する絶好の機会であり、本県の総力を挙げて臨む必要がある。

これまで県議会では、平成28年に国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会を設置し、およそ2年半にわたる調査・検討を行い、両大会の成功等に向けた施策の基本方向を取りまとめるとともに、知事はじめ執行部に対し提言を行ったところである。

いよいよ両大会の開催が迫る中、県議会及び議員は自らも様々な活動等を通じて競技、イベント、文化プログラム等の両大会に関する情報発信を積極的に行っていくほか、本県の魅力を広く発信していくとともに、来県される方々に対して心のこもった「おもてなし」に努めるなど、両大会の成功に向けて、県民の先頭に立ち率先して取り組みを推進していかなければならない。

以上の基本的な考え方にに基づき、両大会の成功に向けた県議会及び議員の活動指針を定める。

## 2 県議会及び議員の行動指針

### 一．両大会の普及啓発

あらゆる活動を通じて、本県における両大会開催の認知度向上に努め、県民総参加の機運醸成を図ること

### 一．両大会への参加

炬火イベントをはじめとした、両大会に関するイベントへの参加や競技等の応援・選手の激励など、県民の先頭に立って両大会の盛り上げに努めること

### 一．来県者へのおもてなし

選手や役員、観覧者などの来県者を心のこもった温かいおもてなしで迎えるよう、県民一体となったおもてなしに努めること

### 一．スポーツの推進

競技や障害者スポーツの紹介、デモンストレーションスポーツなどへの参加などを通じて、県民のスポーツに対する意欲や関心を高め、本県スポーツ文化の振興に努めること

### 一．茨城県の魅力発信

両大会を機に、観光や文化、県産品、農林水産物など本県が誇る多彩な地域資源を積極的に発信すること

**天皇陛下御即位記念**  
**「いきいき茨城ゆめ国体2019」・「いきいき茨城ゆめ大会2019」の**  
**成功に向けた決意表明**

いよいよ「いきいき茨城ゆめ国体2019」が9月28日に、「いきいき茨城ゆめ大会2019」が10月12日に開催される。

本県で45年ぶりとなる国民体育大会並びに本県初となる全国障害者スポーツ大会の開催にあたっては、これまで「いばらきの魅力」を全国に発信する絶好の機会として、県民一人一人が郷土に誇りをもち、創意工夫を凝らした大会となるよう、県や市町村、競技団体等、そして県民が一体となって、両大会の開催準備や、来県者を迎え入れる体制の整備と機運醸成などに取り組んできた。

県議会においても、平成28年に国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会を設置し、およそ2年半にわたる調査・検討を行い、両大会の成功等に向けた施策の基本方向を取りまとめ、知事はじめ執行部に対し提言を行ったところである。

さらに、本年は、全議員からなる国体・障害者スポーツ大会推進協議会を設置し、県議会及び議員の行動指針を定め、国体に関連した初の全国大会となるeスポーツをはじめとした文化プログラム、デモンストレーションスポーツ、各種イベントに参加するなど、議員自ら率先して両大会の機運醸成と成功に向けた活動を進めてきた。

国体については、本年1月に冬季競技が開催され、茨城県は男女総合、女子総合ともに全国3位となり、中長期的な競技力向上の成果が形となって現れるなど、天皇杯、皇后杯獲得に向けて大きな弾みとなっている。夏季競技においても既に一部の会期前競技が始まっており、きたる本大会の開催に向け一層の盛り上がりが見込まれる。

全国障害者スポーツ大会については、競技やイベント等を通して、障害のある人もない人も全ての参加者が可能性にチャレンジし、思いやりの心や感動と希望を共有できる大会を目指し取り組みを進めてきた。今大会における様々な取り組みを契機に、誰もが互いに助け合い幸せに暮らせる「共生社会」づくりを、この茨城から発信するため、大会を大いに盛り上げていかなければならない。

また、両大会の成功に向けた取り組みにとどまらず、来年は東京オリンピックのサッカー競技が本県で開催されることなどを踏まえ、両大会の成果が、将来にわたって本県スポーツの振興、観光や地域の活性化に活かされるよう、大会後を見据えた取り組みにも努めていく必要がある。

晴れやかなる令和元年、両大会には「天皇陛下御即位記念」の冠称が付与され、御即位された天皇陛下をお迎えする初めての大会となる。両大会のスローガン「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」のとおり新たな時代にふさわしい大会となるよう、茨城県議会は、両大会の成功と、本県の更なる飛躍に向け、県民とともに全力で取り組むことを表明し、本協議会の決意表明とする。

令和元年9月10日

茨城県議会 国体・障害者スポーツ大会推進協議会



## 国体・障害者スポーツ大会推進協議会 終了にあたっての会長挨拶

本県は、国体において四十五年ぶりとなる天皇杯、皇后杯を獲得するなど、茨城県選手団の活躍は、県民に大きな夢と希望を与えてくれました。期間中は全国から多くの方々が茨城を訪れ、相互に交流を深めるなど、活気に満ちた素晴らしい大会となりました。

一方で、全国障害者スポーツ大会は、台風第十九号の影響により中止となり、安全を最優先とするやむを得ない判断でありましたが、開催に向けて準備された関係者や選手の皆様の、落胆と無念を想うと非常に心が痛むものでありました。

しかし、長年にわたる献身と努力により培われた経験は、障害のある人もない人も、誰もが共にスポーツを楽しむ文化を、ここ茨城で育てていく礎となるものであります。来年には東京パラリンピックが開催され、障害者スポーツは、なお一層の盛り上がりを見せていくと確信いたします。新たな目標に向けて、更なるご活躍をご期待申し上げます。

そして大会の運営を支えたボランティアの皆様。来県者への心のこもったおもてなしなど、皆様の活動が大会の成功を支えたといっても過言ではありません。まことにありがとうございました。

議員におかれましても、競技会場での応援や運営へのご尽力など、県議会議員としてそれぞれの職責を果たされましたことに感謝と慰労を申しあげます。

また、執行部の皆様には、これまでのご努力にあらためて敬意を表します。国体の円滑な運営と競技力向上への取り組み、また、障害者スポーツ大会についても、直前まで開催に向け必死に努力されたことなど様々な経験は、本県の大きな財産となるものであります。

来年の東京オリンピックに際しては、本県でもカシマスタジアムでサッカー競技が行われます。この経験を活かし、世界から来県される方々を茨城の誇りと思いやりを持って迎えることができるよう、皆様方のご協力を重ねてお願い申し上げます。

両大会の開催と成功は本県にとって大きな目標でありましたが、将来を見据えれば、これが新たなスタートになるものです。選手の皆様には、更なる研鑽とご活躍を祈念しますとともに、障害がある人もない人も、誰もが等しくスポーツに親しむことができる茨城県づくりに、なお一層のご尽力を賜りたいと思います。

結びに、議員、執行部の皆様、そして、選手、ボランティアの皆様、ご協力まことにありがとうございました。四十五年ぶりに開催された茨城国体が成功裏に終えたことを祝すると共に、その成果を活かし、県民の皆様と力を合わせて、茨城県のスポーツ文化の振興と地域発展に取り組んでいくことを決意し、国体・障害者スポーツ大会推進協議会を終了したいと思っております。

まことにありがとうございました。

令和元年12月10日

国体・障害者スポーツ大会推進協議会 会長 川津 隆

# 第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」の結果について

令和元年12月10日  
教 育 庁

## 1 本県選手団の成績

都道府県	天皇杯（男女総合）	皇后杯（女子総合）
茨城県	第1位 (2,569.0点)	第1位 (1,331.0点)

※ 本県の実皇杯及び皇后杯の獲得は、前回の茨城国体以来45年ぶり

## 2 前回大会との比較

区 分	第74回（茨城）	第73回（福井）	比較
入賞競技・種目数	38競技209種目	25競技111種目	13競技98種目増
うち上位入賞種目数（※）	114種目	39種目	75種目増
成年男子種別得点	814.0点	237.0点	577.0点増
成年女子種別得点	690.5点	246.5点	444.0点増
少年男子種別得点	384.0点	153.5点	230.5点増
少年女子種別得点	280.5点	83.0点	197.5点増
団体種目入賞数 （獲得点数）	65種目 (1,412.0点)	23種目 (357.0点)	42種目増 (1,055.0点増)
うち上位入賞種目数（※）	33種目	10種目	23種目増
競技別優勝数	10競技	1 競技	9 競技増

※上位入賞・・・1位から3位までの入賞

## 3 天皇杯及び皇后杯獲得の要因

- (1) 福井国体における不本意な結果を徹底的に分析した上で課題を明確にし、競技団体とともに選手強化計画を一から見直し、それを着実に実行してきたことが結果につながった。
- (2) 団体競技では、強豪チームとの練習試合や強化合宿を積極的に実施したことにより、課題となっていた「大事な場面で勝ち切る力」が付き、上位入賞に結びついた。
- (3) 開催県ということでブロック大会が免除され、全ての競技・種目に出場できたことにより、入賞競技・種目数の増加につながった。
- (4) 冬季競技の活躍（天皇杯・皇后杯共に3位）、会期前競技の体操の好成績（競技別優勝）などが、その後の競技に対して非常によい流れを作ってくれたことが大きかった。
- (5) 各試合会場で多くの県民が大きな声援を送ってくれたことが選手の力となった。

### <参考> 本県の過去の成績

年 度	天皇杯（男女総合）	皇后杯	開催県	天皇杯獲得県
平成30年	16位(1,120.0)	14位(689.5)	福井県	福井県
平成29年	23位(948.0)	21位(558.0)	愛媛県	東京都
平成28年	22位(981.5)	14位(660.5)	岩手県	東京都
平成27年	32位(839.0)	25位(488.5)	和歌山県	和歌山県
平成26年	31位(852.5)	37位(441.5)	長崎県	長崎県

# 全国障害者スポーツ大会の結果等について

令和元年12月10日  
保 健 福 祉 部

## 1 茨城県選手団の構成等

団 長 大井川 和彦 (茨城県知事)  
副団長 荻津 和良 (茨城県身体障害者福祉団体連合会会長)  
副団長 笹本 健一 (茨城県心身障害者福祉協会会長)  
副団長 関 清一 (茨城県保健福祉部福祉担当部長)

### (1) 選手・役員数

	障害区分	個人競技 (6競技)	団体競技 (7競技)	計
選手	身体	74	49	123
	知的	77	94	171
	精神	6	10	16
	計	157	153	310
役員 (監督・コーチ等)		117	43	160
計		274	196	470

### (2) 派遣期間 (当初予定)

令和元年10月10日 (木) ~ 14日 (月・祝) 4泊5日

## 2 これまでの取組み

本県の出場選手は、例年、個人競技で30数名の参加枠であり、団体競技は、関東ブロック大会の優勝が出場条件となっているが、今大会は開催県であるため、個人競技約150人の参加枠に加え、団体競技すべてに出場可能であることから、全ての競技種目に出場できるように、選手の確保・育成を推進してきた。

選手強化については、「第19回全国障害者スポーツ大会茨城県選手育成・強化検討委員会」を平成26年12月に設置し、各年度の「選手育成・強化実施計画」に基づき、各競技団体と調整後、各競技の強化練習会やスポーツ教室を開催してきた。

## 3 今後の予定

- 全国障害者スポーツ大会鹿児島大会の予選会となる県障害者スポーツ大会 (個人競技) を5月に開催する。
- いきいき茨城ゆめ大会に向けて、障害者スポーツに対する関心や理解が盛り上がったことから、こうした気運を一過性のものとすることなく、誰もが楽しめるスポーツ体験教室を開催するなど、障害者スポーツの一層の普及啓発に努める。

# 茨城国体・障スポを振り返って

## 国体・障害者スポーツ大会局

令和元年12月10日

### 総合開・閉会式

[内訳]

(1) 総合開会式

		参加者数(名)
1	選手団 選手・監督等	4,240
2	大会関係者 大会役員等	11,372
3	観覧者 一般観覧者等	10,546
<b>合 計</b>		<b>26,158</b>

(2) 総合閉会式

		参加者数(名)
1	選手団 選手・監督等	1,531
2	大会関係者 大会役員等	6,042
3	観覧者 一般観覧者等	5,729
<b>合 計</b>		<b>13,302</b>

(3) 競技会

		参加者数(名)
1	正式競技 37競技	652,344
2	特別競技 1競技	31,311
3	公開競技 5競技	7,797
4	デモンストレーション 31競技	40,276
<b>合 計</b>		<b>731,728</b>

**参加者総数 771,188名**



国体総合開会式(全体風景)

## 茨城県選手団 天皇杯・皇后杯獲得



天皇杯

皇后杯



## 茨城県選手団 天皇杯・皇后杯ダブル獲得



茨城県選手団解団式後の記念撮影



## ボランティア



ドリンクサービス



運営ボランティア(IDゲート)



救護ボランティア



運営ボランティア(バス輸送)

## ボランティア



応援ボランティア(都道府県応援団)



運営ボランティア(満喫いばらき弁当配布)



運営ボランティア(IDゲート)



運営ボランティア(総合案内所)





eスポ  
**47都道府県の代表が、日本一の称号をかけ激突!**  
「全国都道府県対抗eスポーツ選手権 2019 IBARAKI」本大会は、  
**10月5日・6日の2日間、茨城県つくば市で開催!**

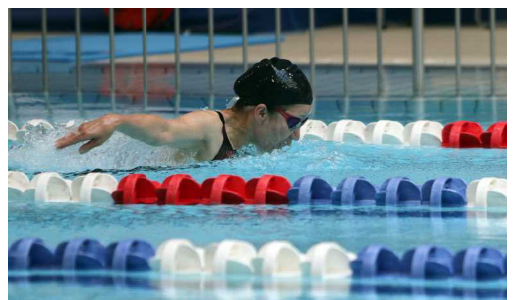
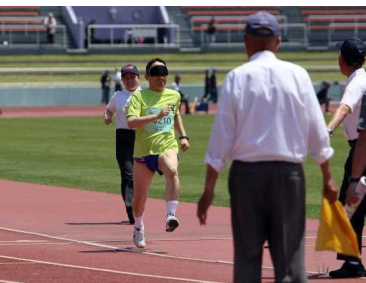


つくば国際会議場 茨城県選手団優勝



各都道府県選手団

### 障スポリハーサル大会(令和元年5月25日~26日)





# まぼろし~のいきいき茨城 ゆめ大会展の開催

令和元年11月1日~15日(15日間)  
来場者数 23,649人



県庁25階展望ロビー南側フロア



いばラッキー